



ISSN 1344 - 5634

米子高専図書館報  
第112号令和3年12月 発行  
米子工業高等専門学校図書館

## 「ビブリオバトル」を開催しました

図書館・リベラルアーツセンターでは、「ビブリオバトル」を、11月15日(月)16時10分から合同講義室で開催しました。皆さんは、「ビブリオバトル」を知っていますか？ 公式サイトやYouTubeに動画もあります。この機会に見てみてください。

### ビブリオバトルとは？（「知的書評合戦ビブリオバトル公式サイト」より）

#### 公式ルール

- ①発表参加者が読んで面白かった本を持って集まる。
- ②順番に一人5分間で本を紹介する。
- ③それぞれの発表の後に参加者全員でその発表に関するディスカッションを2～3分行う。
- ④全ての発表が終了した後に「どの本が一番読みたくなったか？」を基準とした投票を参加者全員一票で行い、最多票を集めたものを『チャンプ本』とする。

たったこれだけのルールで、遊べば読書がスポーツに変わって、本を読むのが楽しくなる！

いろんな本に巡り会えて、どんどん世界が広がる！

そんなコミュニケーションゲームです。

また、紹介の際にはシンプルに本とカウントダウンタイマーだけ。

あとは、ライブでアドリブで本について語ります。

プレゼンの時間を(公式ルールより短い)「3分間」で行うことにして、出場者(バトラー)を全学生から募集したところ、6名の学生がエントリーしてくれました。クラス・名前・紹介図書を発表順に掲載します。どんなバトルになったでしょうか。

5C	大 島 みなみ	『たんぽぽ娘』
3D	加 藤 晃 樹	『時計館の殺人』
3D	加 藤 崇	『源氏物語』
1-5	藤 原 ダイヤ	『ぼくは君たちを憎まないことにした』
3M	田 中 希 颯	『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。』
2D	三 井 朱 寧	『Vivy prototype』



図書委員長の開会あいさつ



出場者のプレゼンの様子

当日は、27名の参加者(出場者・観戦者(学生20名、教職員7名))が集まりました。

図書委員長の3C津村さんが司会を務め、図書委員の4M岩崎さんと4C小川くんがタイムキーパーをしてくださいました。他の図書委員も参加してくれました。

出場者が順に一人3分間で本の紹介をした後、ディスカッションの時間も取りました。「どんな時に読みましたか?」「この本と出会ってあなたにどんな変化がありましたか?」など参加者からの質問に答えてもらいビブリオバトルを深めることができました。



出場者のプレゼンの様子



出場者のプレゼンの様子

そして、「一番読みたくなった本」を基準に参加者が投票を行いました。

投票の結果、「チャンプ本」(最優秀賞)には1-5の藤原ダイヤさんの『ぼくは君たちを憎まないことにした』が選ばれました。そして、次点で優秀賞は3Dの加藤晃樹くんの『時計館の殺人』になりました。

### ★参加者の感想

「どんなトリックなのか気になった。ミステリーが好きのため選んだ。6冊とも今度読もうと思う」、「『推し』という言葉にひかれた」、「普段、フィクションを多く読むが、ノンフィクションの本も読んでみたいと思った」、「初めて聞きに来たが、面白そうだと思う本が多く、今度読んでみようと思った」など。



投票の様子



出場者の集合写真

### ★出場者の感想

「いろんな本と出会えてよかった」「普段読まないジャンルについて知れてよかった」と定番の感想をとりあえず書いておきます。色々な人の「好き」が集まった空間はなんとも言えない楽しさがありました。でも意外と感じるのが「自分が発表した本と向き合えてよかった」ということ。発表内容を考えている間に選んだ本のことをもっと好きになれ、参加してよかったと思えました。  
追伸。みんながチャンプ本を読み終わった頃に感想交流会みたいなのが開いてみたいです。(3D 加藤崇)

今年は去年よりも作品の幅が広く、作者も偏っていませんでした。新しい本を見つけることができ良かったです。前々から読みたかった本をさらに読みたいと思えたり、既に読んだことがある本をもう一度読みたくなったりできたのも良かったです。  
私が紹介した本は一人でも多くの人に知ってほしいと思っている作品なので、今回ビブリオバトルで紹介できてとてもうれしく思いました。(2D 三井)

ビブリオバトルへの参加は今回で2回目でした。知らなかった本を知れるだけでなく、難しそうだと避けていたジャンルや本のオススメポイント、読みやすい読み方など知ることができ、ビブリオバトルが終わる頃には今回紹介されていた本達が読みたくてしかたありませんでした。

今回は参加者全員がその本と出会ったきっかけ等を知ることができ、とても楽しかったです。(5C 大島)

今回先生にお話をいただいて、初めてビブリオバトルに参加しました。本番はとても緊張しましたが、自分が「他の人にも読んでもらいたい!」と思った1冊を最後まで紹介することができ、さらにチャンプ本にも選んでいただけたのでうれしかったです。また、他のパトラーの方が紹介してくださった本はどれも魅力満載で、私もぜひ読んでみたいと思いました。

ビブリオバトルを通して、今まで自分が読んだことのない、幅広いジャンルの本と出会うことができたのでとてもよかったです。(1-5 藤原)

出場者の中から加藤崇さんに、12月12日(日)に倉吉市で開催予定の全国高等学校ビブリオバトル鳥取県大会へ出場してもらうことになりました。

ビブリオバトルは、来年度も開催したいと思います。今回出場してくれた学生、観戦してくれた学生や、ビブリオバトルに興味を持った学生、皆さんの参加を楽しみにしています。

後期、図書委員長になりました3C津村紘華です。図書委員長として米子高専の図書館の魅力をたくさんの人に伝えられるようにがんばりたいです。

米子高専の図書館はきれいでいろんな種類の本が揃っています。実験のレポートなどの参考文献探しだけでなく、気になっていたあの本も今年話題のこの本も米子高専図書館にはあります。

本を読むだけではありません。図書館には充実した自習スペースもあります。スマホを充電することも可能です。テスト期間には高専一集中して勉強できる場所と言っても過言ではないです。

本が好きな人も、そんなに読まないし本に興味がないという人も、図書館を活用してもらえよう努力していきたいと思います。半年間よろしくお祈いします。

## 「読書感想文コンクール」の入賞作品を紹介します

図書館では、本科1年生を対象に、国語科の協力を得て、「読書感想文コンクール」を開催しました。学生が自由に選んだ図書について、原稿用紙(400字詰)3枚以上5枚以内で感想文を書き、夏季休業後に提出してもらいましたところ、150作の応募がありました。

1次審査で、各クラスから3～5編が選ばれ、20作が2次審査にノミネートされました。2次審査では、その中から審査員が点数をつけ、下記のように入賞者を選出しました。最優秀賞・優秀賞の作品は、「高い問題意識から著作をとらえ、自分の意見を適切に述べている」、「著者の隠喩的表現を自分なりに解釈していて興味深い」、「(感想文の)文章が巧みである」などの評価点が挙げられました。

11月16日開催の図書館運営委員会で最終審査・決定し、22日に校長室で表彰式を行いました。

最優秀賞				
クラス	名前	題名	読んだ本	著者
1-5	藤原ダイヤ	『ぼくは君たちを憎まないことにした』を読んで	ぼくは君たちを憎まないことにした	アントワーン・レリス 訳：土居佳代子
優秀賞				
1-4	佐々木陽菜	安部公房『砂の女』を読んで	砂の女	安部 公房
佳作				
1-2	遠藤 司	「ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー」を読んで	ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー	ブレイディみかこ
1-3	坪井 春花	太宰治『葉桜と魔笛』を読んで	葉桜と魔笛	太宰 治
1-4	波田 祈莉	二十一を二十二にするために	八月の終わりは、きっと世界の終わりに似ている。	天沢 夏月
1-5	齋藤 匠	松村涼哉「15歳のテロリスト」	15歳のテロリスト	松村 涼哉
1-5	三島 幸咲	「僕はそうは思わない」	逆ソクラテス	伊坂幸太郎



校長室での表彰式(読書感想文コンクールおよびビブリオバトル)

最優秀賞と優秀賞の作品(感想文)を掲載します。

## 最優秀賞

### 『ぼくは君たちを憎まないことにした』を読んで

#### 1-5 藤原 ダイヤ

二〇一五年十一月十三日のパリ同時多発テロを覚えているだろうか。フランスの爆撃に対する報復として、イスラーム過激派による銃撃、爆撃が同時多発的に発生。死者は少なくとも百三十人にのぼり、多数の負傷者を出した。この惨烈な事件で、Facebookのある投稿が話題となった。それは、このテロで妻を失い、十七か月の息子と二人になった遺族の男性が書いた、テロリストに向けた手紙だ。

「……ぼくは君たちに憎しみを贈ることはしない。……息子とぼくは二人になった。でも、世界のどんな軍隊より強い。……この幼い子供が、幸福に、自由に暮らすことで、君たちは恥じ入るだろう。君たちはあの子の憎しみも手に入れることはできないのだから。」

この本は、手紙の著者であるアントワヌ・レリスさん自身が執筆した、事件後約二週間のドキュメントである。

大切な人を失い、二人になってしまった家族が、悲しみと必死に向き合い、真っすぐに生きていこうとする姿が鮮明に描かれた作品。読んでいて胸がいっぱいになる著者の想いや息子との日々に感化され、私はこの本で、感想文を書きたいと思った。

私は、遺体安置所で著者と妻が再会した場面がとても心に残っている。ガラスの向こうで眠る彼女に、「……出来ればずっと一生ここにいたい。でも、もう行かなくては。……それは、ある父親と息子が忠誠を誓っていた天体の助けなしで立ち上がる話だ。」と言った。

著者は彼女と再会するまで、「三つ以上の単語を話すだけで疲れてしまう」ほど、憔悴しきっていた。だが彼女を前に、自分の記憶は彼女と過ごした美しい日々で溢れていることに気付き、彼女が遺した小さな息子と二人で立ち上がる決意をした。そして、次第に言葉が出てくるようになった著者は、その日の夜、テロリストに向けた手紙を投稿した。

彼女を天体(月)に例えた著者の言葉からは、著者と息子にとって彼女がどれほど偉大で、美しい存在だったかが読み取れる。「月は沈む」けれど、なくなっちはいない。著者を支えたのは間違いなく彼女だ。見えなくても誰よりそばで著者を支え、希望であり続ける彼女の存在を、この場面から強く感じ、私はそれが心に残った。

もう一つ、深く心に残った場面がある。それは、妻を埋葬した日の夜、「ぼくという、かつて存在した、この子の母親を誰よりも愛していた男……の最後のキス」を息子の額にする場面だ。

私ははじめ、なぜ「かつて」「存在した」「愛していた」と過去形にしたのか、どうして「最後」なのか、わからなかった。しばらく考えて、ふと、その部分に妻への愛情が最も強く表れているのではないかと思った。どれだけ願っても、彼女の匂いや体温、心臓の鼓動、何気ない日々の些細な出来事など、時間が経てば、少しずつ忘れてしまう。それを著者はよく理解していた。だから、彼女へ捧げる愛情で、これからの自分は、以前の自分に敵わないと考え、彼女の魂を還したこの日を一つの「最後」にしたのではないかと私は解釈した。そして、そんな著者の姿に、どこまでも妻を想う一途で温かい愛情を見つけ、私はとても切なくて、胸がぎゅっと締めつけられた。

私はこの本を読んで、どうか彼ら家族が、幸福に、自由に生きられますように、と願わずにはいられなかった。悲しみと向き合うと決意しても、どうしようもない恐怖や不安はなくなる。痛々しい感情や姿が繰り返し描かれる。それでも向き合おうとし続ける彼らの強さに、私は切なさや感動で何度も涙がこぼれた。彼らのように、強く生きようとする人たちが報われる世界であってほしいと、私は思った。

「何も許していないし、何も忘れていない」それでも「ぼくは君たちを憎まないことにした」そこに込められた著者の想いが、日々が、考えが、飾らない言葉でストレートに伝わってくるこの本を、私は多く



## 読書感想文コンクールの入賞作品

の人に読んでほしいと思った。

物事に向き合い逃げないこと、人を想い、自分の人生を生きていくことの、強さと美しさを知った。私がこれから生きていく中で、理不尽な出来事に悲しみ、苦しむことは多々あると思う。そんなとき、私は著者のように、大事なものから目を逸らさずに向き合うことができるだろうか。私は何度も逃げてしまうだろう。それでも、目を逸らすまいと必死に足掻いてみようと思えるのは、この本と出会い、著者たちの姿に強く感化されたからだと思う。私はこの本と出会えてよかった。

### 藤原さんより

最初に自分の書いた感想文が賞に選ばれたと聞いた時には、“まさか自分が” ととても驚きましたが、素敵な賞をいただけたことをうれしく思います。ありがとうございます。

私が感想文の題材にした「ぼくは君たちを憎まないことにした」という本は、著者アントワーン・レリスさんが体験した実際の日々が描かれています。他の本と比べると、ページ数も少なく、文字も大きい、1時間程度で読み終えてしまうような小さな本です。しかし、そこに込められた著者の想いは何よりも真っすぐ、読んだ人の心に突き刺さります。大切な人を想い、自分自身と向き合い続ける著者の姿は、読者に自分自身と、家族と、周りの人と、改めて向き合うきっかけをくれるでしょう。ぜひ一度、手に取って読んでみてください。

## 優秀賞

### 安部公房『砂の女』を読んで

#### 1-4 佐々木陽菜



友人に勧められた安部公房の小説『砂の女』。本を手にとると、表紙が少し不気味だった。砂浜と鴉。この鴉が何を暗示しているのか気になり始めた。そこで私はこの本を読み、読書感想文を書くことに決めた。

この物語は、砂丘へ昆虫採集に出かけた男が、砂で囲まれた一軒家に閉じ込められ、脱出を試みるが部落の人々に妨害されてしまうという話である。サスペンス溢れる展開のなかに人間の在り方を追求した作品となっている。

私は、この小説を読んで印象的だった場面がある。それは、男が砂穴から脱出できる環境だったなか、脱出をしなかったという場面だ。最初は砂穴から脱出する方法ばかり考えていた男だが、最後は「脱出」というものに興味が無くなっている。それよりも、水を製造し、少しでも砂穴の中で快適に住ごすことに必死になっていた。読み進めていくと、男が部落の一員になっているように思った。毎日しなければならぬ砂かき。終わりのないことに熱心になっている。まさに、現代に生きる私たちが社会のシステムに組み込まれていく様子を明確に描写していると感じた。そして、自分の熱中できることや人の役に立つこと、そのような目標を見つけた時、人は極端に自由を制限されていたとしても、希望を持って生きることができる。そのようなことをこの場面から学んだ。

そして、『砂の女』とタイトルにもあるように、この小説では部落を包んでいる「砂」の存在がキーワードとなっていると思う。この砂は、物を侵食し、夜になると固まるという、普通とは違う性質を持ち、少し違和感がある。そこで、私は安部公房が個人的な執念により、私たちの常識の価値観や常識の世界などを侵食してくるよう感じた。

また、私は紛れもなく「砂」というものは現実の社会のしくみ、そのものだと思う。ちょっとした気の緩み、状況を受け入れてしまったが最後、じわじわと蟻地獄のように引きずりこまれてしまう。現実の世界と同じではないだろうか。他にも、人はある大きな組織の一員として、生活を支えるかを得るために生きる。社会や会社はそれらの人々に与えられた責務を全うさせるため、逃げ出さないように何かで縛ろうとする。私は、初めは、この物語は自分や現実とは全く関わりの無い、ありえない話だと考えていた。だが、現実の世界でも同じだったことに気づかされた。このように、人生において後戻りの利かない大きな岐路に影響しうる状況過程というのが、すごくリアルに描写されていると感じた。

さらに、男が部落の人々を「灰色の連中」と呼んでいることが気になった。つまり、男は「灰色の連中」と呼び、彼らを馬鹿にしていたのだ。それは結局、自分には昆虫採集という趣味があり、旅行に行くこともできるということを示して、こいつらとは違う、豊かな人生を送っていると思ひ込みたかったのだと思う。そして、男が必死に新種の昆虫を探して図鑑に残そうとする行為も、自分の人生が一粒一粒の小さな砂粒だと思いたくない。その悪あがきだったのだろうと考えた。

最後に、この小説は、比喩表現が多く、また演劇的であったため、非常に読みやすかった。さらに、世界でも高く評価され、評価されているということはどの国・地域においても共通する、人間社会の成り立ちにおける何かを描かれているのだと思うと、とても興味深かった。また、作品を読んで幸せとは何か、自由とは何かを考えさせられた。私は今後、この本から学んだ、自分の潜在的な要求を叶えられるならば環境は関係ないということを生かして、自分の存在意義を見つけられる環境を見つける活動としてコース選択をしていこうと思った。さらに、今この瞬間を大切にしていこうとこの本を読んで感じた。

### 佐々木さんより

この度は、読書感想文で優秀賞という大きな賞をいただけてとてもうれしく思います。今回私が読んだ作品は安部公房さんの「砂の女」ですが、この作品は、幸福とは何か、自由とは何かをとことん追求しています。この本を読んで、私は、人は目標を見つけた時、極端に自由を制限されていたとしても、希望を持って生きることができるということ学びました。さらに、他の本にもこのように生き方のヒントがたくさん書かれています。ですので、これからも本を通じて、本当の自分らしさを見つけていきたいです。

また、読書感想文を書くにあたり、ただ読むなら楽しいで終わるけれど、そこから自分の内面と向き合い、それを言葉にするのはこんなにも難しいことなのかと実感しました。ですが、本を読み、その感想を書くことは、文章をまとめ自分の視野を広げていく、とても良い機会になりました。これからも多くの本を読んで、物事に対する新しい考え方を学びたいです。

読書感想文コンクールで読まれた本、ビブリオバトルで紹介された本は、図書館にあります(購入手続き中のものもあります)。どうぞ読んでみてください。

### 《冬季長期貸出(特別貸出)を実施しています》

学生の皆さんへの図書館の貸出期間は通常2週間ですが、12月1日(水)～24日(金)の間に借りた図書は、返却期限を1月15日(土)にしています。

冬季休業を利用してゆっくり本を読んでみてはいかがでしょうか。なお、図書館は12月25日(土)～1月5日(水)は閉館します。良いお年をお迎えください。



## 図書館(交流フラグ)に学生がデザイン・制作した机を増設(展示)しています

建築デザイン部門 小椋 弘佳

本校では、長期間利用されていなかった「旧ボイラー室」を「ラーニングcommons」へと改修するプロジェクトが進行中です。「旧ボイラー室」は正面玄関、図書館情報センター・前広場、学生寮に隣接します。この好立地条件を活かし、「キャンパス内における学びと憩いの場」として改修することを目指しています。

このプロジェクトは学生や教職員で「Team 米子高専」を構成して、時間帯、季節に合わせた多様な利用を可能とする自主的な創造活動を促す拠点として整備します。学生の皆さんの日常利用に加え、図書館で借りた本をゆっくり読めるスペース、寮生の学習スペース、留学生交流会や卒研・特研発表会、ロボコン・プロコン・デザコン等の課外活動成果発表会、イングリッシュカフェ等の会場としての利用を想定しています。

今年度は、入口の建具取替、内部床、空調、電気設備などを主に改修しています。そのうち、建具、内部床の土間コンクリート打設工事や家具製作は、学生が設計や施工の過程に係わっています。自らの学びの場を自ら創り出す達成感を体験できる機会でもあります。Instagramでも情報発信しています(アカウント名: ynct\_lcp)。

家具製作は、4Aの学生が高専祭の科展としても取り組みました。さらに、4Aが家具製作ワークショップを企画し、1年生から5年生まで多くの学生が参加しました。

製作された机は、図書館(交流プラザ)に展示しています(一部は物理実験室前スペースに展示)。ぜひお越しいただき、利用してみてください。

家具製作ワークショップは今後も開催しますので、興味のある人はぜひご参加ください。家具は来年度にはラーニングcommonsに移動します。図書館や前広場と一体として利用できるようになりますのでお楽しみに。



図書館で利用できます



旧ボイラー室外観



床工事



家具ワークショップ\_デザイン



家具ワークショップ\_模型検討



家具ワークショップ\_製作



高専祭\_4A旧ボイラー室での科展

## 図書館からのお知らせ

★図書館では、今年度から、水筒やペットボトルなどきちんとフタを閉められる容器に入った飲み物については、水分補給や熱中症対策の一環として、館内で飲むことを認めています(その他の飲食は従来通り禁止しています)。  
飲む際には、図書や施設等を汚損することのないよう注意してください。  
皆さんが快適に図書館で読書や勉学に励んだり、リラックスした時間を過ごしたりしていただけたらと思います。

★図書館のウッドデッキ(テラス)側の自動ドアを開放しています。  
白砂会館・学生寮側から図書館内へ、また図書館内から白砂会館・学生寮側へ、図書館正面に回ることなく、出入りできます。ただし、強風など悪天候の時は閉鎖します。

上記は、学生の皆さんの要望や意見を基に図書館として検討・実施したものです。皆さんが使いやすい図書館となるよう努めていきたいと思っております(図書館長・スタッフ一同)。

## 閲覧室 & 交流プラザ限定で持ち込めるもの



※空のペットボトルなどを、トイレおよびメディアラボのごみ箱に捨てないでください。ごみの分別にご協力をお願いします。



## 図書館の業務・活動等

- 7月6日(火) 鳥取県立図書館から来館・打ち合わせ
- 7月7日(水)、12日(月) 臨時休館(大雨警報による登校禁止のため)
- 7月9日(金) 図書部会(第3回)
- 7月20日(火) 図書館運営委員会(第1回)
- 8月21日(土)～10月10日(日)の土曜日・日曜日  
臨時休館(新型コロナワクチンの職域接種会場となったため)
- 8月27日(金) 図書部会(第4回)
- 9月2日(木) 鳥取県立博物館から来館・打ち合わせ
- 9月12日(日) 文化セミナー【中止】(新型コロナウイルスの感染拡大防止のため)
- 9月21日(火)～10月1日(金) 休館(本校のコロナ強化期間の延長に伴うもの)
- 9月30日(木)～10月15日(金) (書面審議) 令和3年度中国・四国地区高等専門学校図書館長会議
- 10月19日(火) 図書部会(第5回)
- 10月22日(金) 第62回中国四国地区大学図書館研究集会(共催、オンライン)
- 10月25日(月) 図書委員会(第2回)
- 11月5日(金) 読書感想文コンクール2次審査(一般ゼミナール室)
- 11月8日(月) 図書委員会(第3回)
- 11月15日(月) ビブリオバトル(合同講義室)
- 11月16日(火) 図書館運営委員会(第2回)
- 11月22日(月) 読書感想文コンクールおよびビブリオバトルの表彰式(校長室)

※記事において、学科等の名称をアルファベットで表記している箇所があります。

M…機械工学科、E…電気情報工学科、D…電子制御工学科、C…物質工学科、A…建築学科、G…教養教育科、S…専攻科  
例えば、「5M」は機械工学科5年生を表しています。

発行：米子高専広報室 〒683-8502 鳥取県米子市彦名町4448 TEL: 0859-24-5000 FAX: 0859-24-5009  
ホームページ：https://www.yonago-k.ac.jp/ 印刷：東京印刷株式会社